

1. 4月2日「負けないぞ！ 南相馬市」即売会速報

4月2日、6号線沿い「南相馬道の駅」で生協臨時即売会を開催しました。地元紙や町の有線放送の効果もあり、11時販売開始時には長蛇の列ができ、販売所内には混乱を避けるため30名ずつ順次入っていただいたの販売となりました。販売は15時まで行い、カップ麺、日配品、人参・玉ねぎなどの野菜類をまとめて購入される方が多かったようです。午後2時過ぎには来客数も落ち着き15時に終了しました。



混雑する即売会の様子

参加者はのべ620名、販売金額は102万円、接客には会員生協の支援者も含め、50名で対応しました。



開場前の様子



参加した組合員さんに生協からのメッセージを伝える

(現地に行かれたコープふくしま野中専務談)

会場で会った地元市議員さんからは「4月11日以降、近隣のスーパーなどは店舗を閉めており、生活されている方がたいへん困っていた。ここ南相馬市では水道、ガス、電気のインフラは整っており、生鮮品をこの即売会で買うことができ大変助かった。」という話を聞いた。地元の生協に対する期待はたいへん高く、このことをコープふくしまに戻ったらすぐに関係者に伝えて今後の相談を行いたい。

2. 1日対策委員会の報告

(1) 店舗事業

4月1日から8店舗は通常営業に入る。最も被害が大きかった国見店は5月20日、保原店は5月1日、笹々谷店は4月28日にオープン予定。この3店舗も店頭販売を行っている。国見店の修復は資材の搬入遅れや業者の人手が確保できないなどの理由から連休前のオープンが難しい状況ではあるが、野中専務より1日でも早く通常営業できないか検討するよう指示が飛ばされていた。

14日からみやぎとの合同企画でB4チラシを配布。売上が前年を下回っている状況を何とか打開する取り組みをSVに指示。売場の品揃えの確保を引き続き行いながら売場の工夫を前面に押し出して供給回復に努めることが確認された。発注に対する入荷状況は何とか50%を越えるようになってきた。

(2) 共同購入

4月2週企画から共同購入再開。注文書は文字だけで取り扱い品目も少ないが、早期に利用者回復をめざす。利用組合員数は約32,000人。

(3) 安否確認

現在までに各店舗では合計22,000件の電話による安否確認の連絡がとれている。4月10日までに約55,000件の確認を終了させる予定でこれらの情報は共済に連絡され、被災された組合員への補償を行うための確認に用いられる。対象となる被災者が多いため訪問活動や補償の実務は長引くものと思われるが、今後、共済活動に期待したい。

日本生協連の支援部隊もこのデータの入力作業に2名を交代で割り当てて応援しています。

(4) 支援の輪

4月1日現在、日本生協連11名、共立社4名、さいたま6名、東海2名、福井県民2名、ひろしま1名、おかやま1名、CSネット3名、とくしま2名、こうち2名、おおいた4名、大学生協連4名がコープふくしまで支援活動を展開しており、今後ともメンバーを交代させながら店舗、共同購入で活動応援を行います。

その他、これまでに参加した会員生協、これから参加する会員生協は次の通りです。にいがた、新潟県生協、いしかわ、鳥取県生協、おきなわ。

3. その他・県内状況等

・福島県被災 死者1069名、不明者5997+ 名となる。

～ 遺体捜索にあたっている警察の談として遺体が発見されても津波や河川で揉まれて遺体は衣服を身に着けておらず、身元の割り出しが非常に困難を極めているとのこと。改めて津波の無残さを知らされました(対策会議に報告された八島理事長の話)。

4. 明日以降の課題

(1) 支援者受入態勢強化

2日は新たにさいたまコープから2名を受け入れます。日本生協連の支援者5名は3日で新たに10名の支援者と交代します。

3日は日程的に対応可能な支援者の代表5名を相馬地区にご案内し、被災の状況を確認していただきます。会員生協に戻られてから現地の報告をしていただくレポートもお願いする予定です。